

## 選挙に関する世論調査の概要

平成21年7月12日執行 東京都議会議員選挙

平成21年8月30日執行 衆議院議員選挙

### 調査の目的等

平成21年執行の都議会議員選挙及び衆議院議員選挙において、都内の有権者が示した選挙に対する意識、投票行動、選挙公報や広報媒体との接触状況、期日前投票の認知状況などを調査し、今後の選挙の管理執行や選挙啓発の参考とする。

調査地域・対象 東京都全域（島部を除く）に居住する満20歳以上の男女個人  
調査対象数・回収数 対象数：3,000人、回収数：1,937人（回収率：64.6%）  
調査方法・期間 個別面接聴取法、平成21年11月21日（土）～同年12月6日（日）

### 主な調査結果

#### 1 選挙に関する都民の意識

選挙への関心度 2ページ（1）参照

【都議選】「関心あり」が65.5%、【衆院選】「関心あり」が83.6%

#### 2 投票行動

候補者の選定基準（「政党重視」か「候補者（人物）重視」か） 7ページ（5）参照

【都議選】「政党」（58.8%）が「人物」（27.5%）を上回る（平成元年選挙以来20年ぶり）

【衆院選】「政党」（66.2%）が「人物」（22.1%）を上回る（調査開始以来衆院選で最大差）

#### 3 選挙公営と選挙啓発

接触した媒体（見聞きした選挙情報） 14ページ（4）参照

【都議選】1位「候補者等のポスター」（68.2%）、2位「テレビ・ラジオの報道」（62.3%）

【衆院選】1位「テレビ・ラジオの報道」（86.2%）、2位「候補者等のポスター」（69.6%）

#### 4 期日前投票の認知度【衆院選】

期日前投票の認知度 15ページ（1）参照

「以前から知っている」（90.8%）と「今回衆院選で知った」（2.0%）で92.8%の認知度

# 調査結果の概要

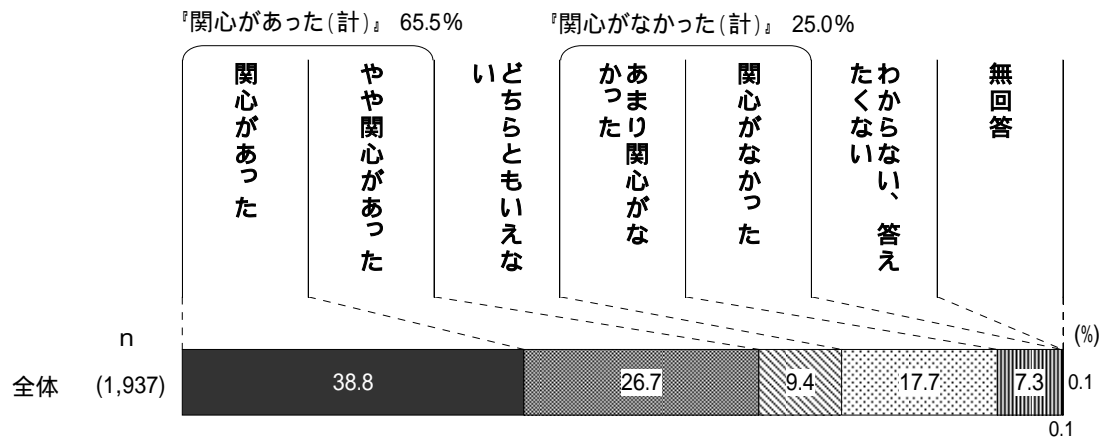
## 1 選挙に対する都民の意識

### (1) 選挙への関心度

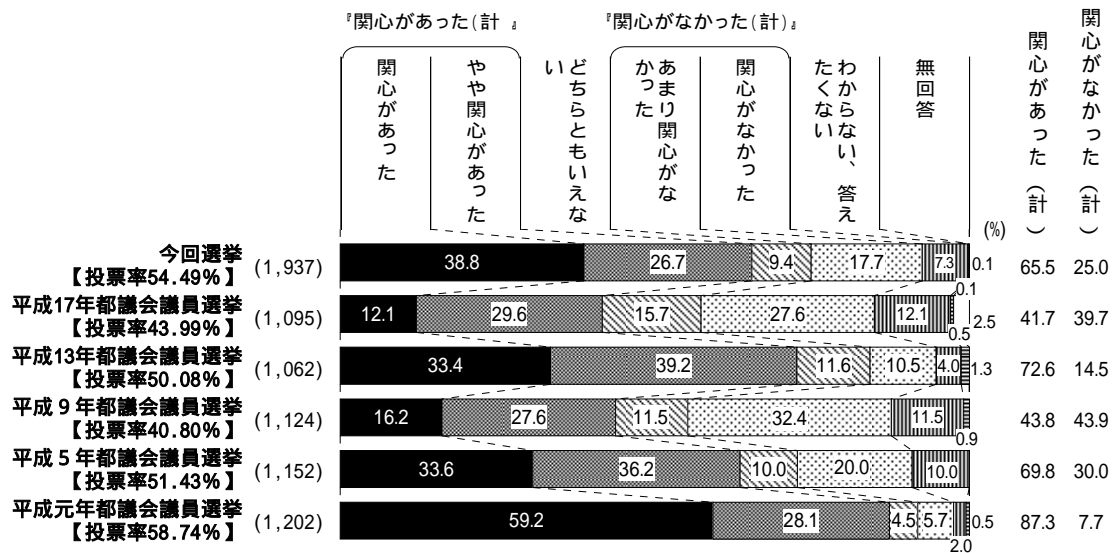
#### 【都議会議員選挙】(本文19ページ)

◇『関心があった(計)』は6割台半ばで、前回に比べて約24ポイント増加している。

また、『関心があった(単独)』でみると、3倍を超える増加となっている。



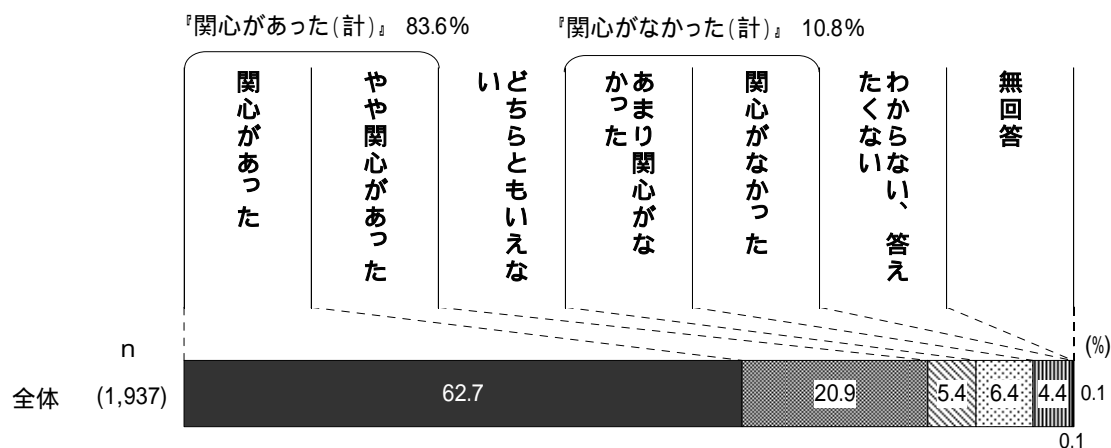
### 時系列比較



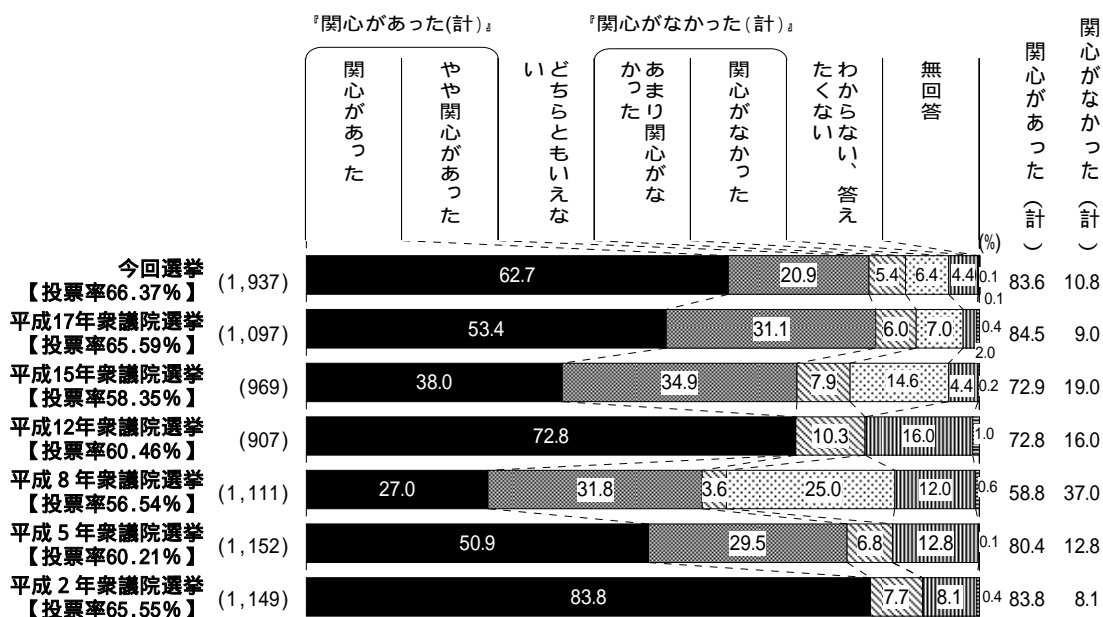
注：平成17年までの選択肢は、「かなり関心があった」「少しは関心があった」「どちらともいえない」「あまり関心がなかった」「まったく関心がなかった」「わからない、答えたくない」

【衆議院議員選挙】（本文80ページ）

◇『関心があった（計）』が8割台半ばで、前回と比べてほぼ変わらないが、『関心があった（単独）』でみると、約9ポイントの増加となっている。



時系列比較



注：平成12年と平成2年の選択肢は、「関心があった」「関心がなかった」「どちらともいえない」「わからない」  
 平成12年と平成2年を除く年の選択肢は、「かなり関心があった」「少しは関心があった」「どちらともいえない」「あまり関心がなかった」「まったく関心がなかった」「わからない、答えたくない」

## (2) 選挙の認知経路「選挙が行われることを何で知りましたか」

### 【都議会議員選挙】（本文23ページ）

◇「テレビ・ラジオの報道」が8割を超えて最も多く、「候補者のポスター」が7割台半ばで続いている。

### 【衆議院議員選挙】（本文84ページ）

◇「テレビ・ラジオの報道」が9割台半ばで最も多く、「候補者のポスター」が7割台半ばで続いている。

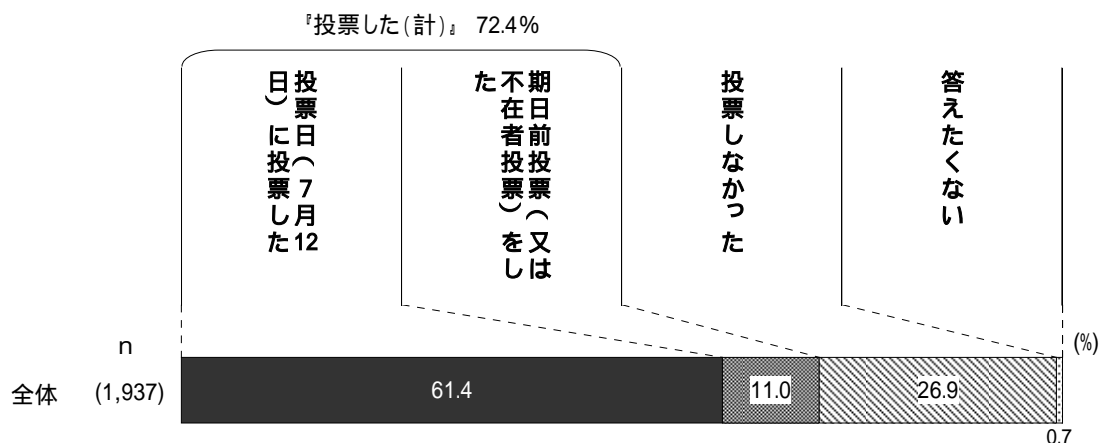
順位	1位	2位	3位	4位
都議選	テレビ・ラジオの報道 81.0%	候補者のポスター 74.6%	新聞・雑誌等の報道 60.5%	広報用ポスター 41.8%
衆院選	テレビ・ラジオの報道 93.9%	候補者のポスター 74.1%	新聞・雑誌等の報道 70.8%	広報用テレビ・ラジオCM 64.9%

## 2 投票行動

### (1) 投票への参加状況

#### 【都議会議員選挙】（本文27ページ）

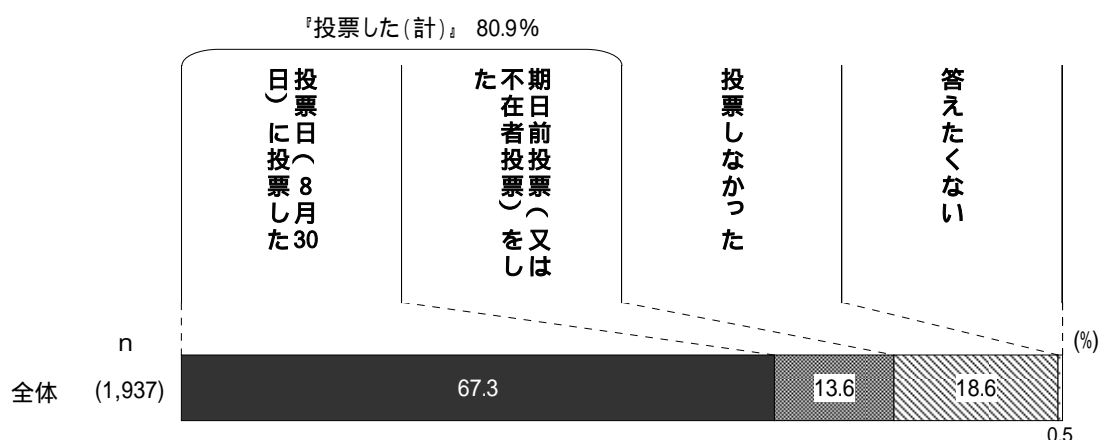
◇『投票した（計）』は7割を超えているが、実際の投票率は、54.49%となっている。この傾向は、過去の調査時と同様である。



【衆議院議員選挙】（本文92ページ）

◇『投票した（計）』は8割であるが、実際の投票率は、66.37%となっている。

この傾向は、過去の調査時と同様である。



(2) 投票の動機

【都議会議員選挙】（本文33ページ）

◇「都政をよくするためには、投票することが大切だと思ったから」が5割を超えて最も多く、「投票することは、義務であるから」、「投票することは、権利であるから」が続いている。

【衆議院議員選挙】（本文97ページ）

◇「国政をよくするためには、投票することが大切だと思ったから」が6割で最も多く、やや差があって「今の政治がよくないので、変えたいと思ったから」、「自分の支持する政党の推す候補者を当選させたかったから」が4割台が続いている。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
都議選	都政をよくするため 51.8%	投票は義務だから 47.6%	投票は権利だから 38.0%	支持政党の推す候補者 32.0%	今の政治がよくない 28.6%	当選させたい候補者 24.7%
衆院選	国政をよくするため 60.5%	今の政治がよくない 45.5%	支持政党の推す候補者 42.1%	投票は義務だから 37.2%	投票は権利だから 34.2%	当選させたい候補者 29.2%

### (3) 投票した候補者の選定理由

#### 【都議会議員選挙】（本文37ページ）

◇「候補者の政策や主張に賛成だから」が約4割で最も多く、「都政全体のことを考えてくれる人だと思ったから」、「自分の支持する政党の推薦する人だから」と続いている。

#### 【衆議院議員選挙】（本文101ページ）

◇「候補者の政策や主張に賛成だから」が4割台半ばで最も多く、「国政全体のことを考えてくれる人だと思ったから」、「自分の支持する政党の推薦する人だから」と続いている。

順位	1位	2位	3位	4位
都議選	候補者の政策や主張に賛成 37.2%	都政全体のことを考えてくれる人 32.9%	支持政党の推薦する人 31.1%	日常の暮らしを守ってくれる人 28.2%
衆院選	候補者の政策や主張に賛成 45.1%	国政全体のことを考えてくれる人 41.3%	支持政党の推薦する人 31.3%	日常の暮らしを守ってくれる人 28.9%

### (4) 候補者の選定に役立った媒体

#### 【都議会議員選挙】（本文41ページ）

◇「テレビ・ラジオの選挙報道」が約4割で最も多く、続いて「新聞・雑誌などの選挙報道」が3割台半ばと、マスコミ報道が上位を占めており、「選挙公報」が3割でそれらに続いている。

#### 【衆議院議員選挙】（本文105ページ）

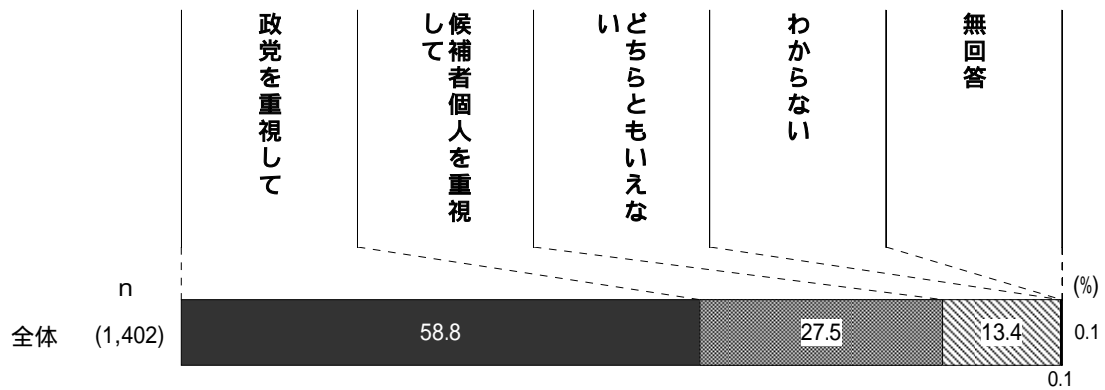
◇「テレビ・ラジオの選挙報道」が約7割で最も多く、やや差があって「新聞・雑誌などの選挙報道」が5割台と、マスコミ報道が上位を占め、更に差があって「選挙公報」が3割と続いている。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
都議選	テレビ・ラジオの報道 39.7%	新聞・雑誌等の報道 35.4%	選挙公報 30.4%	マニフェスト 21.6%	候補者のポスタ - 21.5%	候補者の街頭演説 18.9%
衆院選	テレビ・ラジオの報道 67.1%	新聞・雑誌等の報道 52.0%	選挙公報 30.8%	候補者のポスタ - 25.3%	政見・経歴放送 23.8%	マニフェスト 23.4%

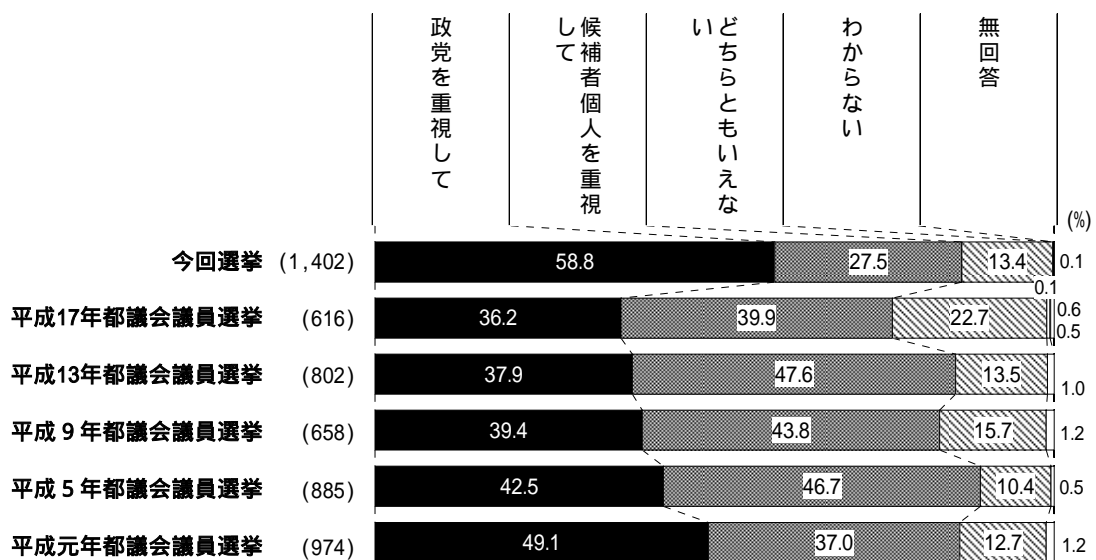
(5) 投票した候補者の選定基準(「政党重視」か「候補者(人物)重視」か)

【都議会議員選挙】(本文45ページ)

◇今回選挙では、「政党を重視して」が約6割で「候補者個人を重視して」(27.5%)を大きく上回っているが、過去の選挙と比較すると、「政党」が「候補者(人物)」を上回ったのは、平成元年選挙以来である。



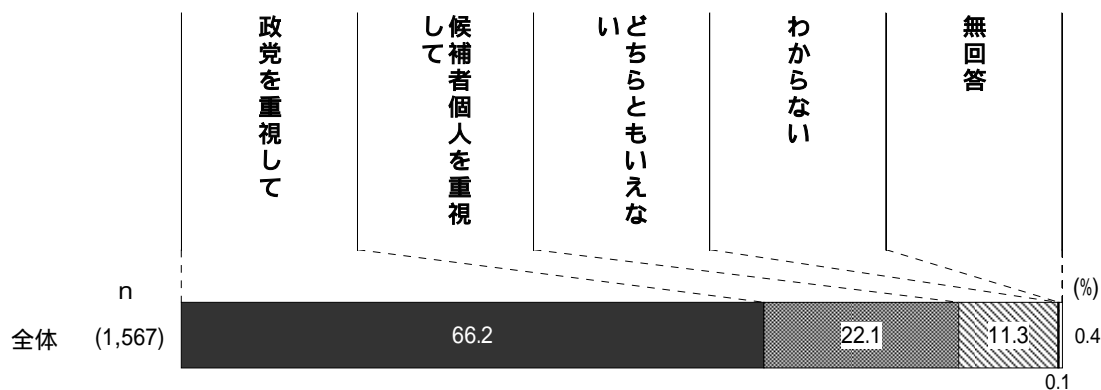
時系列比較



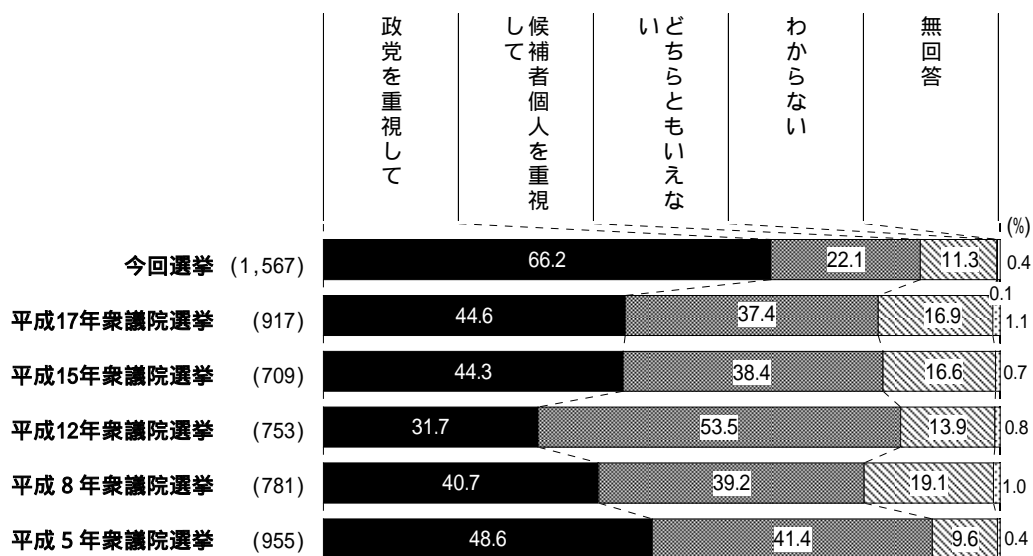
注：平成17年までの選択肢は、「人物」「政党」「どちらともいえない」「わからない」

【衆議院議員選挙】（本文109ページ）

◇今回選挙では、「政党を重視して」が6割台半ばで「候補者個人を重視して」の約3倍となっている。時系列比較でみると、平成12年選挙を除いて、常に「政党」が「候補者個人（人物）」を上回っているが、今回選挙に比べていずれもその差は小さい。



時系列比較



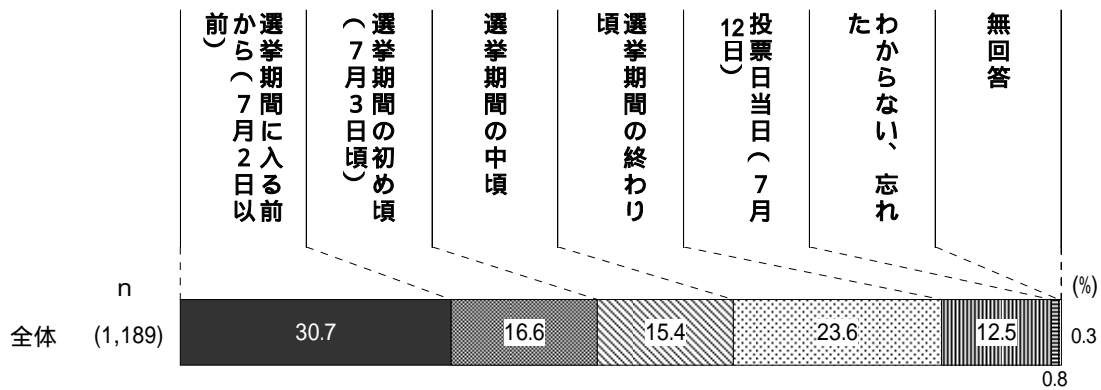
注：平成17年までの選択肢は、「人物」「政党」「どちらともいえない」「わからない」



## (6) 投票する候補者を決めた時期

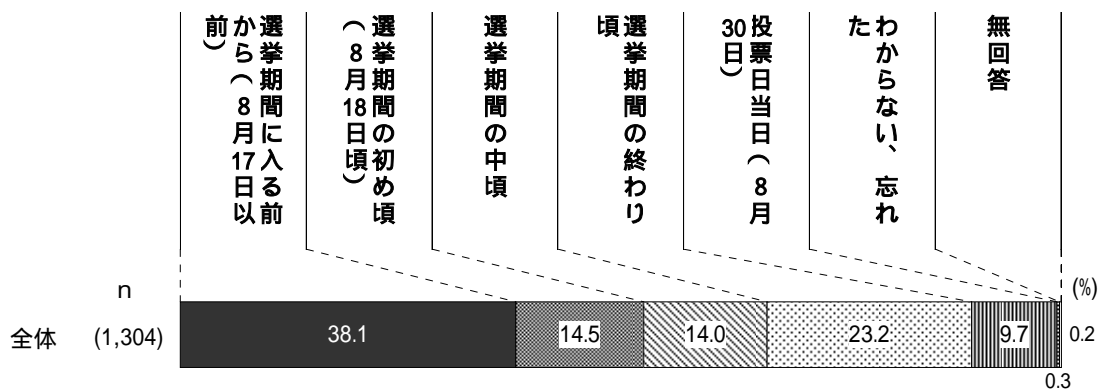
### 【都議会議員選挙】（本文50ページ）

◇「選挙期間に入る前から（7月2日以前）」が3割で最も多く、「選挙期間の終わり頃」が2割台で続いている。



### 【衆議院議員選挙】（本文114ページ）

◇「選挙期間に入る前から（8月17日以前）」が約4割で最も多く、「選挙期間の終わり頃」が2割台で続いている。



## (7) 棄権理由

### 【都議会議員選挙】（本文55ページ）

◇「仕事が忙しく、時間がなかったから」が3割台半ばで最も多く、やや差があって「候補者の人柄や政策がわからなかったから」と「適当な候補者がいなかったから」が2割台で続いている。

### 【衆議院議員選挙】（本文118ページ）

◇「仕事が忙しく、時間がなかったから」が約4割で最も多く、大きく開いて「適当な候補者がいなかったから」と「選挙によって政治や暮らしが良くなるわけではないから」が1割台で続いている。

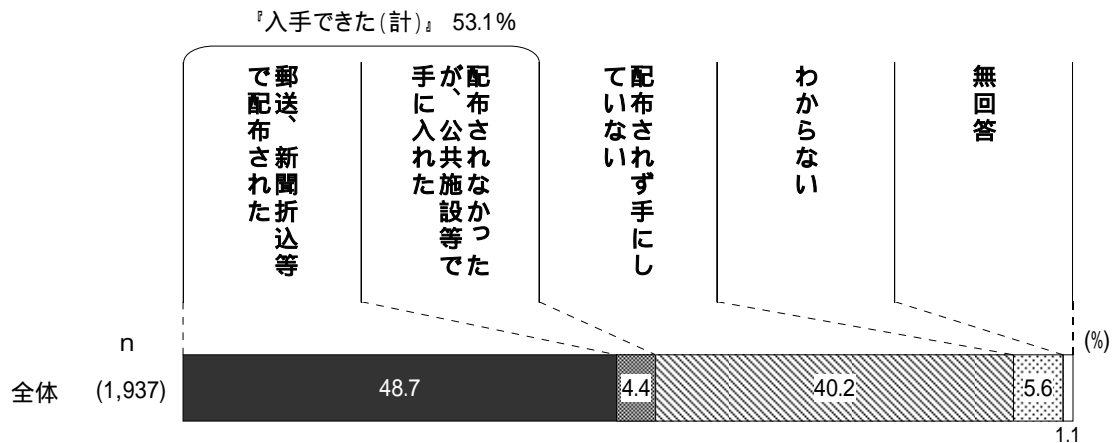
順位	1位	2位	3位
都議選	仕事が忙しく、時間がなかったから 34.5%	候補者の人柄や政策がわからなかったから 21.6%	適当な候補者がいなかったから 21.1%
衆院選	仕事が忙しく、時間がなかったから 37.1%	適当な候補者がいなかったから 18.3%	選挙によって政治や暮らしが良くなるわけではないから 17.2%

### 3 選挙公営と選挙啓発

#### (1) 選挙公報の入手方法

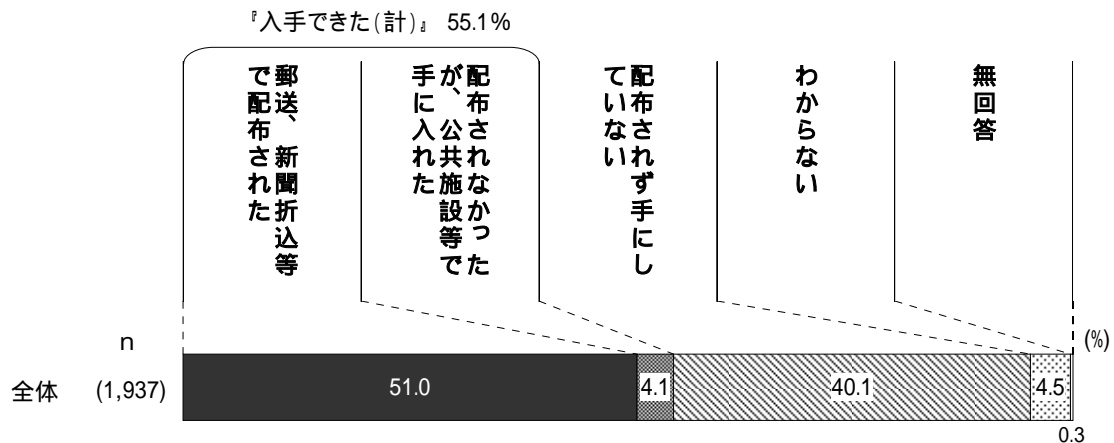
【都議会議員選挙】（本文59ページ）

◇『入手できた（計）』が5割台半ばであるが、『配布されなかった（計）』も4割台半ばに達している。



【衆議院議員選挙】（本文137ページ）

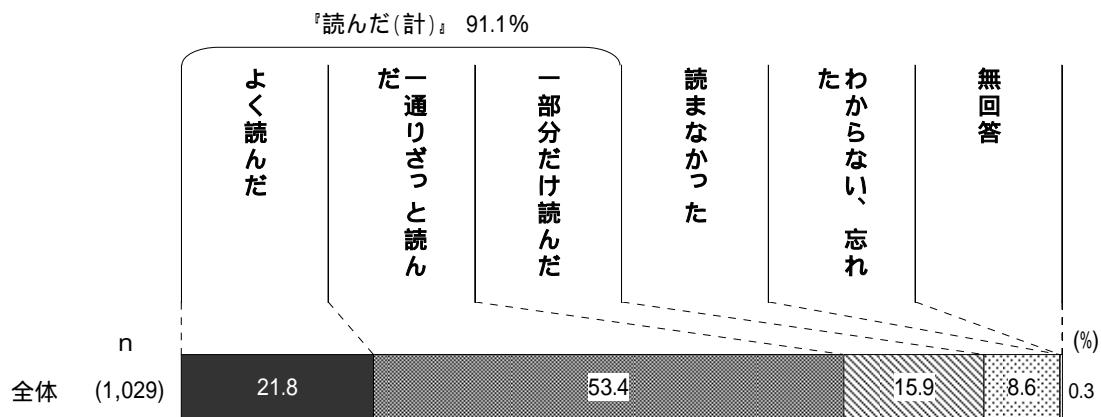
◇『入手できた（計）』が5割台半ばであるが、『配布されなかった（計）』も4割台半ばに達している。



## (2) 選挙公報の閲読状況

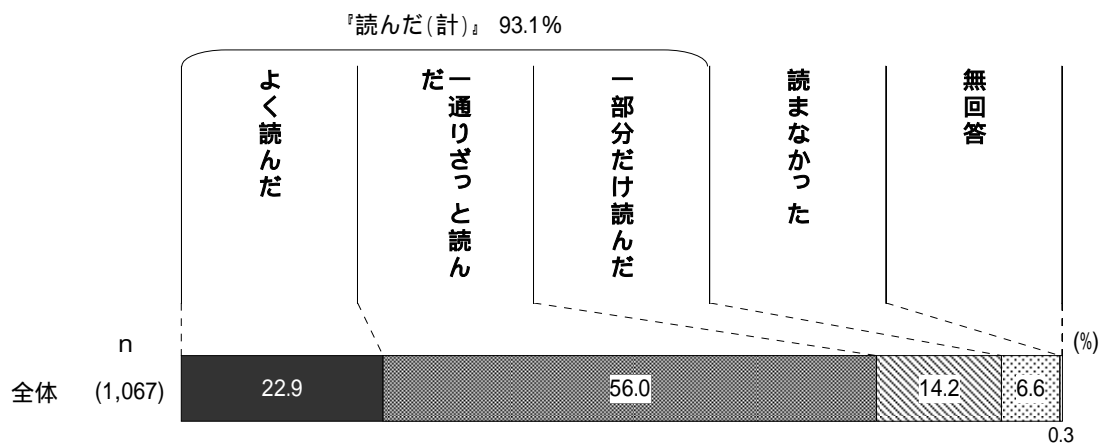
### 【都議会議員選挙】（本文64ページ）

◇『読んだ(計)』が9割を超え、「読まなかった」は8.6%にとどまっている。



### 【衆議院議員選挙】（本文142ページ）

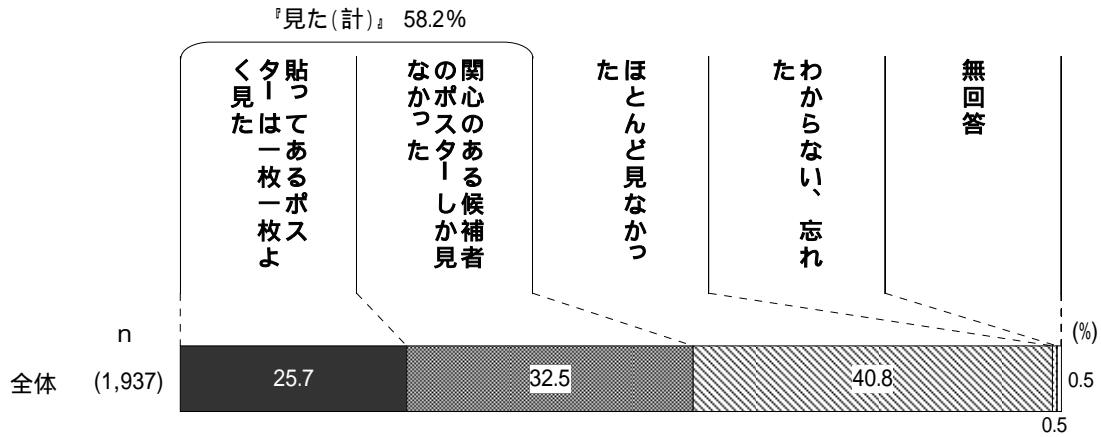
◇『読んだ(計)』が9割台半ばで、「読まなかった」は6.6%にとどまっている。



### (3) 選挙ポスターとの接触状況

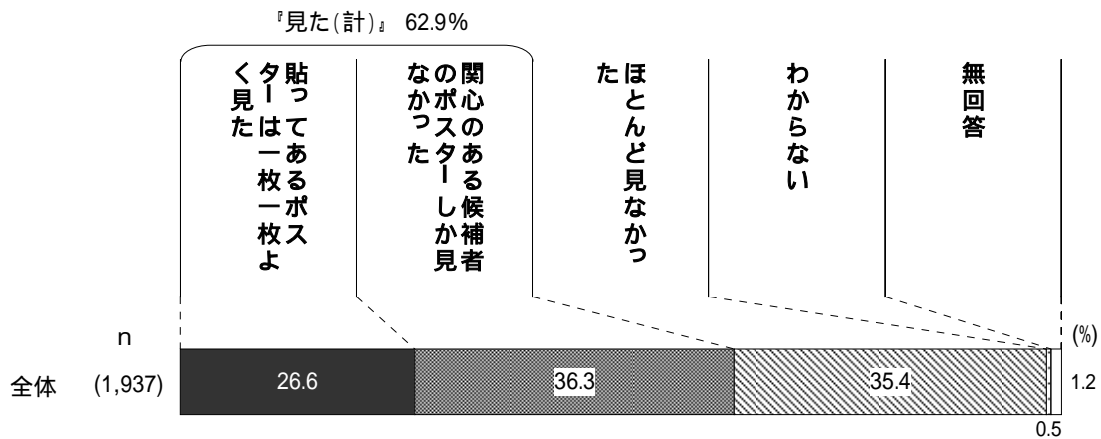
#### 【都議会議員選挙】（本文68ページ）

◇『見た（計）』が約6割であるが、「ほとんど見なかった」も4割に達している。



#### 【衆議院議員選挙】（本文146ページ）

◇『見た（計）』が6割を超え、「ほとんど見なかった」は3割台半ばである。



#### (4) 接触した媒体（見聞きした選挙情報）

##### 【都議会議員選挙】（本文72ページ）

◇「候補者等のポスター」が約7割で最も多く、「テレビ・ラジオの選挙報道」が6割台、「選挙公報」が約5割と続いている。

##### 【衆議院議員選挙】（本文150ページ）

◇「テレビ・ラジオの選挙報道」が8割台半ばで最も多く、差があって「候補者等のポスター」と「新聞・雑誌などの選挙報道」が6割台で続き、「選挙公報」も5割を超えて4位となっている。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位
都議選	候補者等のポスター 68.2%	テレビ・ラジオの報道 62.3%	選挙公報 49.6%	新聞・雑誌等の報道 47.6%	候補者の街頭演説 27.5%	マニフェスト 20.6%
衆院選	テレビ・ラジオの報道 86.2%	候補者等のポスター 69.6%	新聞・雑誌等の報道 62.8%	選挙公報 52.1%	政見・経歴放送 30.6%	候補者の街頭演説 28.4%

#### (5) 啓発媒体との接触状況

##### 【都議会議員選挙】（本文76ページ）

◇「新聞に掲載した広告」が3割台半ばで最も多く、「都の広報紙」と「未来人劇団ひとりのテレビCM」が2割台で続いている。また、「見たり聞いたりしたものはない」（21.5%）も2割を超えている。

##### 【衆議院議員選挙】（本文155ページ）

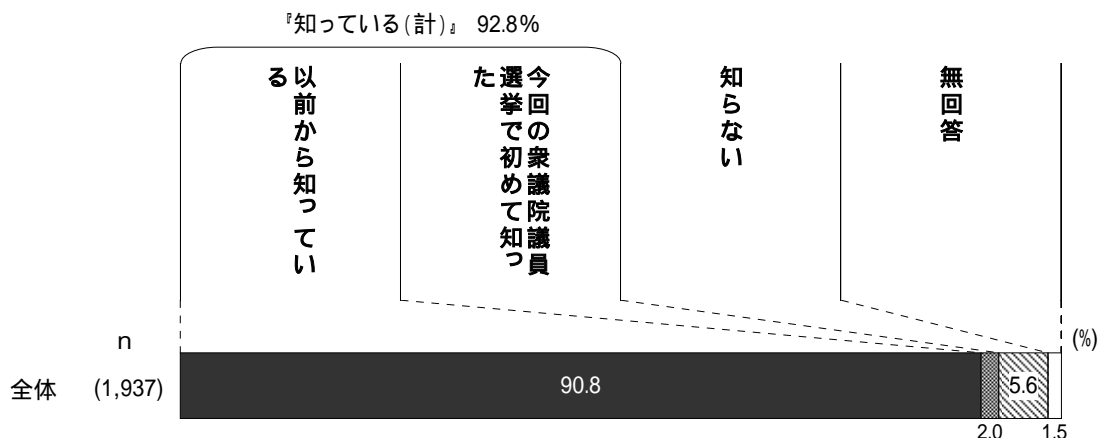
◇「テレビのスポットCM」が6割を超えて最も多く、差があって「新聞に掲載した広告」が4割台で続き、他はいずれも2割に満たない。

順位	1位	2位	3位	4位	5位
都議選	新聞広告 34.8%	都の広報紙 23.8%	劇団ひとりのテレビCM 22.3%	街頭キャンペーン 18.5%	区市町村の広報紙 16.6%
衆院選	テレビのスポットCM 62.4%	新聞広告 43.0%	区市町村の広報紙 19.2%	都の広報紙 18.5%	駅貼りポスター 18.1%

## 4 期日前投票の認知度【衆議院議員選挙】

### (1) 期日前投票の認知度（本文122ページ）

◇『知っている（計）』が9割を超えている。また、「以前から知っている」でも9割に達している。



### (2) 期日前投票の認知経路（本文125ページ）

◇「テレビ・ラジオの報道」が約7割で最も多く、大きく差があって「新聞・雑誌等の報道」が約4割、「投票所入場（整理）券」、「家族、友人、知人などから聞いて」、「国、都及び区市町村の広報紙」が2割台で続いている。

順位	1位	2位	3位	4位	5位
衆院選	テレビ・ラジオの報道 68.3%	新聞・雑誌等の報道 38.8%	投票所入場（整理）券 29.5%	家族、友人、知人などから 24.7%	国、都、区市町村の広報紙 23.1%

### (3) 期日前投票制度の認知度 (本文129ページ)

- ◇ “買物やレジャーなどを理由として期日前投票ができること” は、「知っている」が7割台半ばに達している。
- ◇ “印鑑や身分証明書を持参しなくても、期日前投票ができること”、“期日前投票は、公示日の翌日から投票日の前日(土日含む)までの間できること(衆議院議員選挙の場合は11日間)”、“今回の衆議院議員選挙で期日前投票ができる場所” は、いずれも「知っている」が約6割となっている。
- ◇ “期日前投票は夜の8時までできること” は、唯一「知らなかった」(49.7%)が「知っている」(49.4%)をわずかに上回っている。

